

史料6 『日本書紀』 垂仁天皇

七年の秋七月の己巳の朔乙亥に、左右奏して言さく、「当麻蹶速に勇み悍き士あり。当麻蹶速といふ。その為人、力強くして能く角を毀ぎ鉤を申ぶ。恒に衆中に語りて曰はく、『四方に求めむに、豈我が力に比ぶ者あらむや。何して強力者に遇ひて、死生を期はずして、煩に争力せむ』といふ」とまうす。天皇聞しめして、群卿に詔して曰はく、「朕聞けり、当麻蹶速は、天下の力士なりと。若しこれに比ぶ人あらむや」とのたまふ。一の臣進みて言さく、「臣聞る、出雲国に勇士あり。野見宿禰と曰ふ。試にこの人を召して、蹶速に当せむと欲ふ」とまうす。即日、倭直の祖長尾市を遣して、野見宿禰を喚す。ここに、野見宿禰、出雲より至れり。則ち当麻蹶速と野見宿禰と角力らしむ。二人相対ひて立つ。各足を挙げて相蹶む。則ち当麻蹶速が脇骨を蹶み折く。またその腰を踏み折きて殺しつ。故、当麻蹶速の地を奪りて、悉に野見宿禰に賜ふ。是以その邑に腰折田ある縁なり。野見宿禰は乃ち留り仕へまつる。

史料5 『新撰姓氏録』…嵯峨天皇が命じて816年に完成した畿内在住の氏族名鑑

右京神別上

土師宿禰 天穗日命十二世の孫、可美乾飯根命後なり。

出雲臣 天穗日命十二世の孫、鵜瀨淳命の後なり。

神門臣 天穗日命十二世の孫、鵜瀨淳命の後なり。

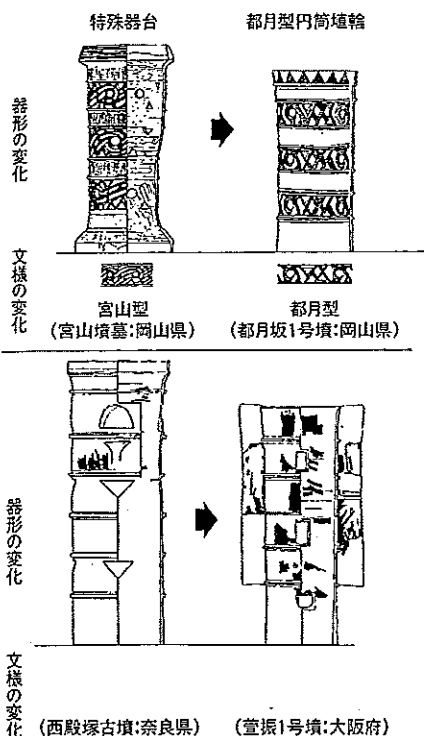
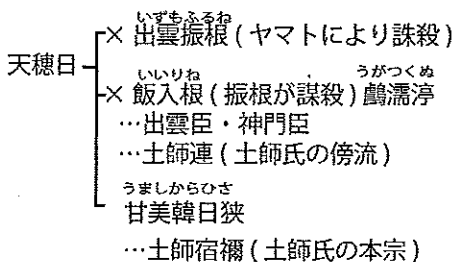
摂津国神別

土師連 天穗日命十二世の孫、飯入根命後なり。

河内国神別

出雲臣 天穗日命十二世の孫、宇賀都久野命の後なり。

神宝校校伝承・新撰姓氏録にみえる出雲臣の系図



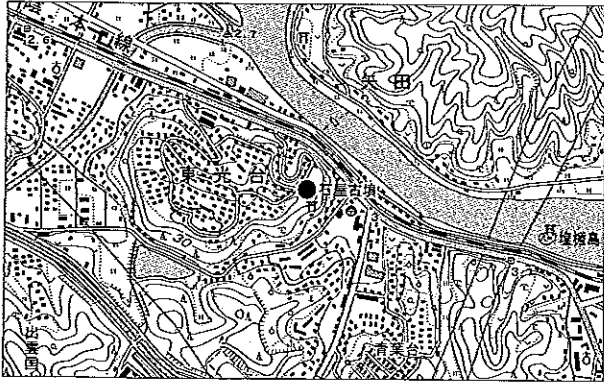
4-1 図 特殊器台から円筒埴輪へ
広瀬和雄『考古学の基礎知識』
角川書店2007

史料7 『日本書紀』 垂仁天皇

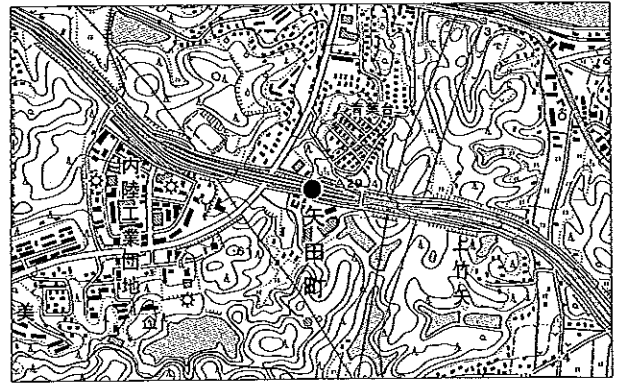
三十二年の秋七月の甲戌の朔己卯に、皇后日葉酢媛命一に云く、日葉酢媛命なりといふ。薨りましぬ。臨葬らむとすること日あり。天皇、群卿に詔して曰はく、「死に従ふ道、前に可からずといふことを知れり。今この行の葬に、奈之為何む」とのたまふ。ここに、野見宿禰、進みて曰さく、「それ君王の陵墓に、生人を埋み立つるは、これ不良し。豈後葉に伝ふこと得む。願はくは今、便事を議りて奏さむ」とまうす。則ち使者を遣して、出雲国の土部耆百人を喚し上げて、自ら土部等を領ひて、埴を取りて人・馬及び種種の物の形を造作りて、天皇に献りて曰さく、「今より以後、この土物を以て生人に更易へて、陵墓に樹て、後葉の法則とせ治へり」とのたまふ。則ちその土物を、始めて日葉酢媛命の墓に立つ。仍てこの土物を号けて埴輪と謂ふ。または立物と名く。仍て令を下して曰はく、「今より以後、陵墓に必ずこの土物を樹て、人をな傷りそ」とのたまふ。天皇、厚く野見宿禰の功を賞めたまひて、また埴地を賜ふ。即ち土部の職に任けたまふ。因て本姓を改めて、土部臣と謂ふ。これ、土部連等、天皇の喪葬を主る縁なり。所謂の野見宿禰は、これ土部連等が始祖なり。

表4 埴輪と装飾古墳壁画の消長 石野博信「総論」『古墳時代の研究 9 埴輪』
雄山閣出版1992

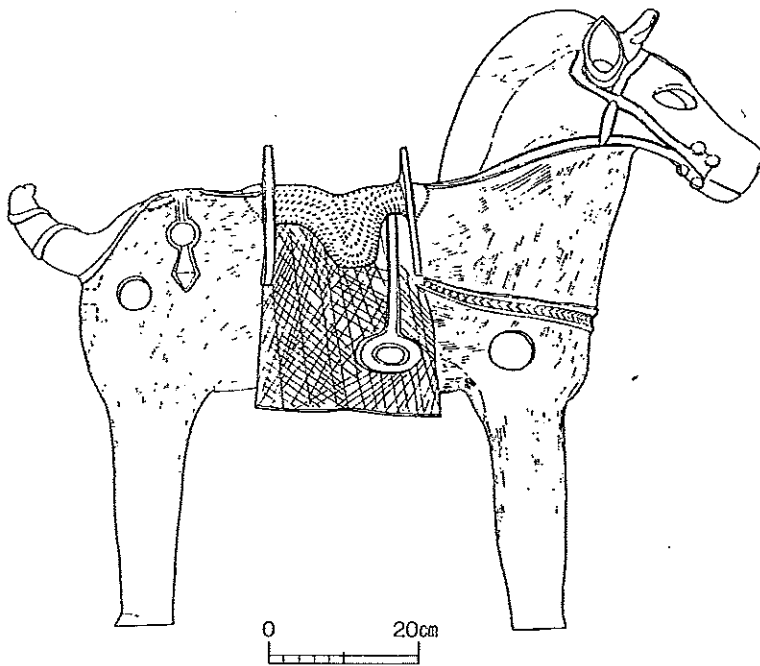
	200	300	400	500	600
	※ 大山古墳				
器台 (円筒)					
壺					
家					
盾・劔					
舟					
鳥					
人					
馬					
犬・猪					
舟+(鳥・人)					?



5-1 図 石屋古墳の位置
第4章 古墳時代

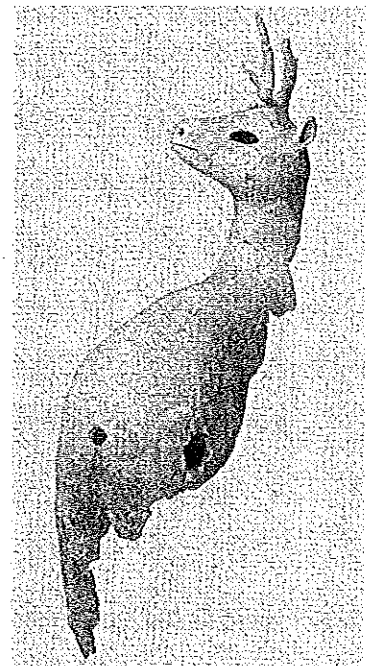


5-2 図 平所遺跡の位置



埴輪馬略測図 (S=1:10)

5-3 図 平所遺跡 (埴輪窯跡) 出土の形象埴輪



見返りの鹿

5-4 図 見返りの鹿埴輪



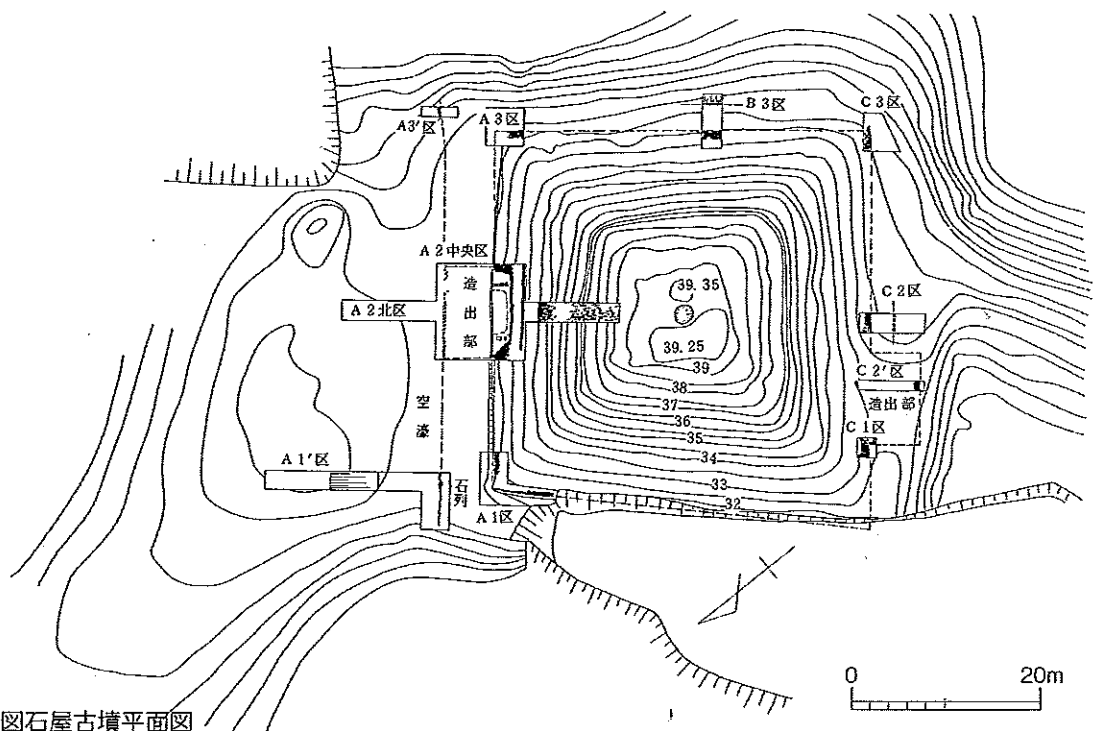
平所埴輪窯跡出土埴輪 (島根県立八雲立つ風土記の丘提供)

5-5 平所遺跡出土埴輪



家形埴輪
(島根県教育委員会提供)

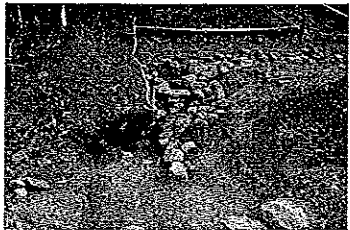
5-6 家形埴輪



6-1 図石屋古墳平面図

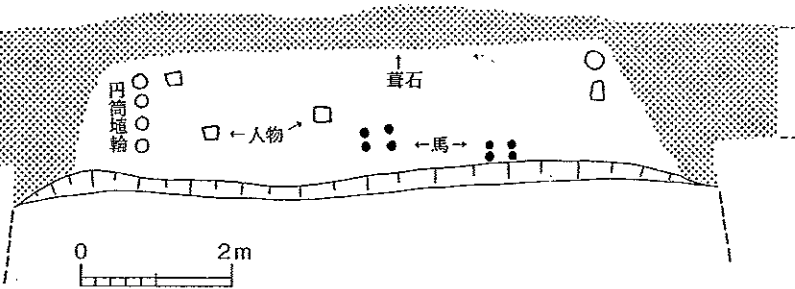


北の造出部（北から）

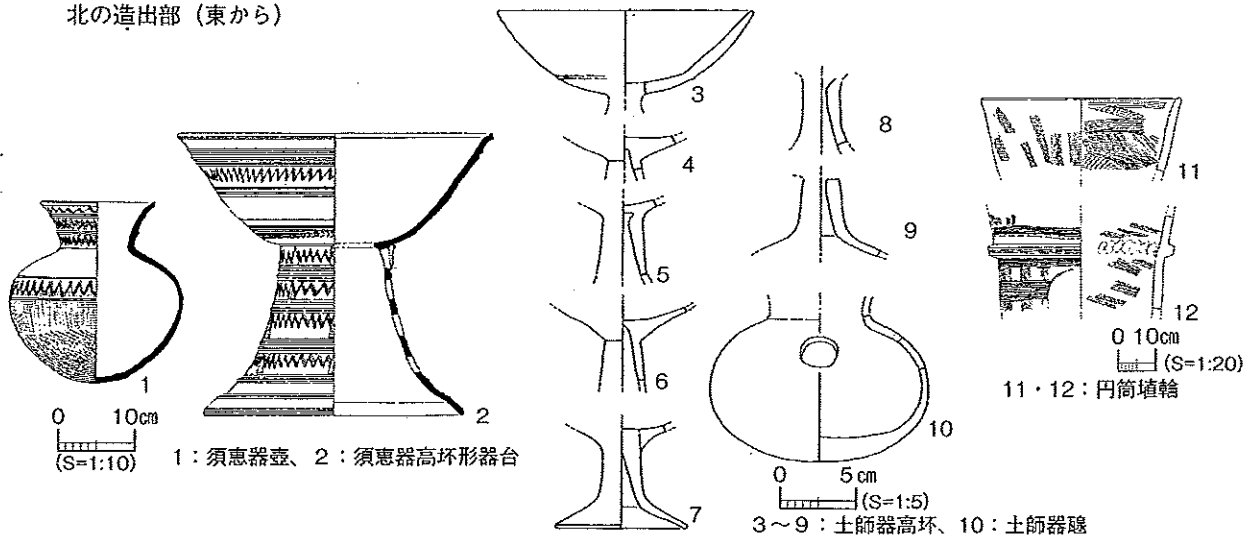


北の造出部（東から）

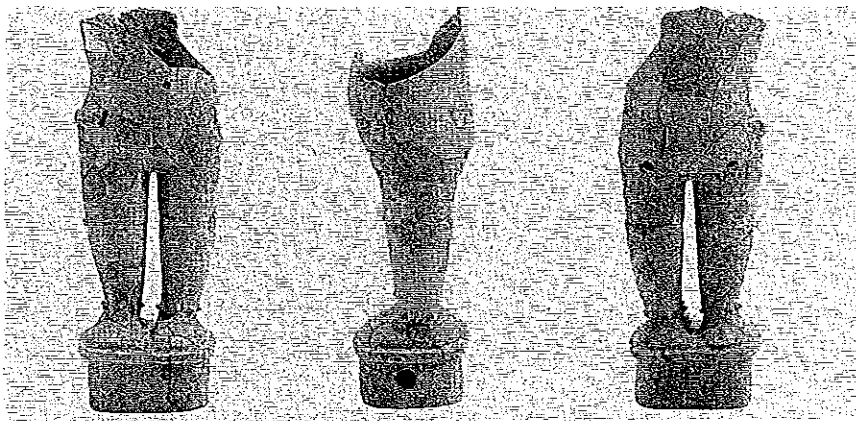
円筒埴輪列



6-2 図 石屋古墳の埴輪出土状況



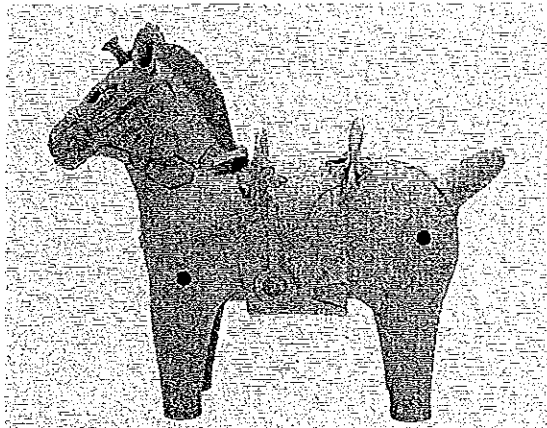
6-3 石屋古墳出土遺物



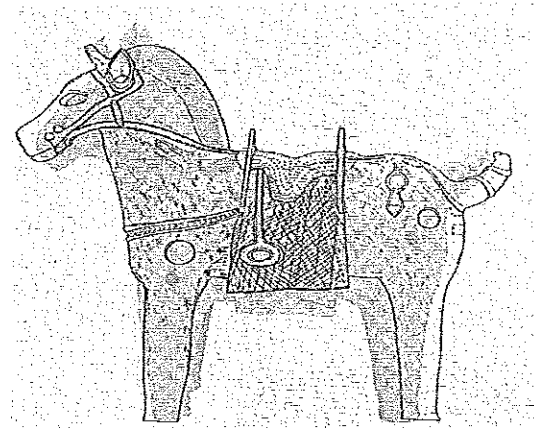
7-1図 石屋古墳 力士埴輪



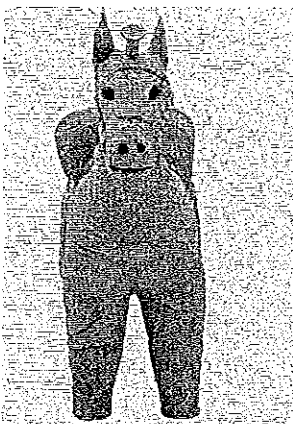
7-7 石屋古墳埴輪



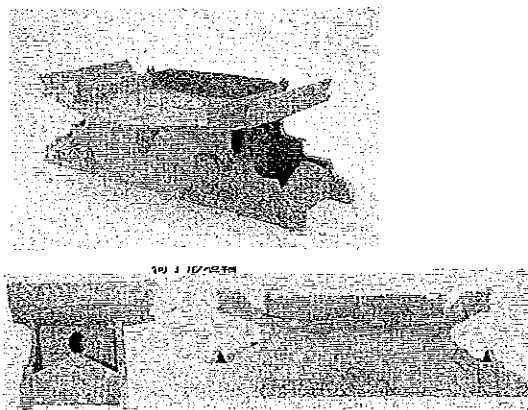
7-2図 石屋古墳 馬形埴輪



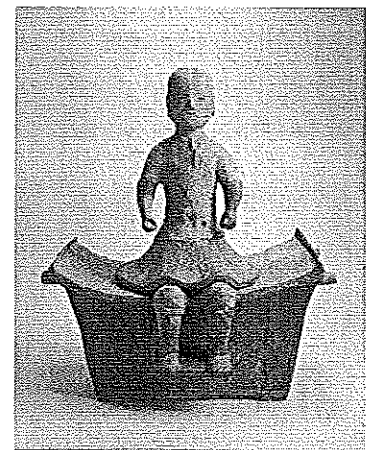
馬形埴輪 写真石屋古墳・実線 平所遺跡埴輪



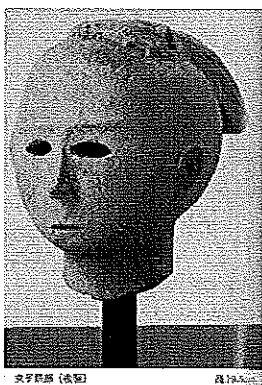
7-3図 石屋古墳 馬形埴輪 正面



7-4図 石屋古墳 椅子形埴輪



7-5図椅子と人物埴輪
奈良県四条古墳出土 (『大出雲展図録』より)



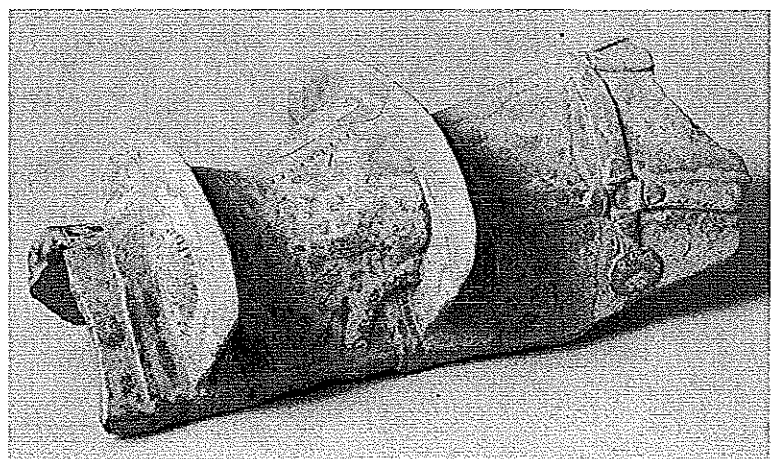
史学雑誌 (複製)

図125



人物形埴輪 腿部

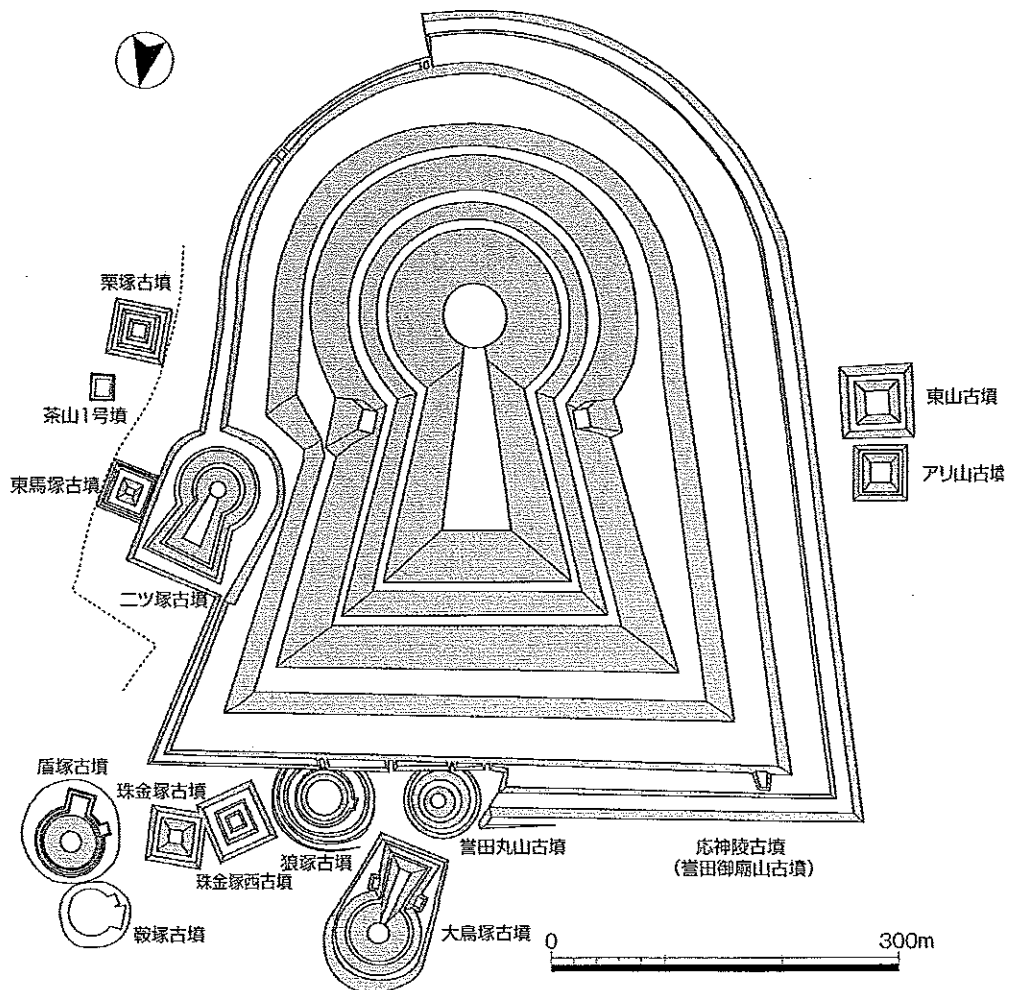
図32.0cm



7-6 大山古墳の形象埴輪

大山古墳 (伝仁徳陵) で採取された、巫女形埴輪頭部・男性人物の足・馬形埴輪 (大阪府・近つ飛鳥博物館「百舌鳥・古市の陵墓古墳」より)

大王陵と倍塚 大型方墳



8-1 図 菅田御廟山古墳（伝応神陵）とその倍塚（近つ飛鳥博物館『百舌鳥・古市の陵墓古墳』より転載）

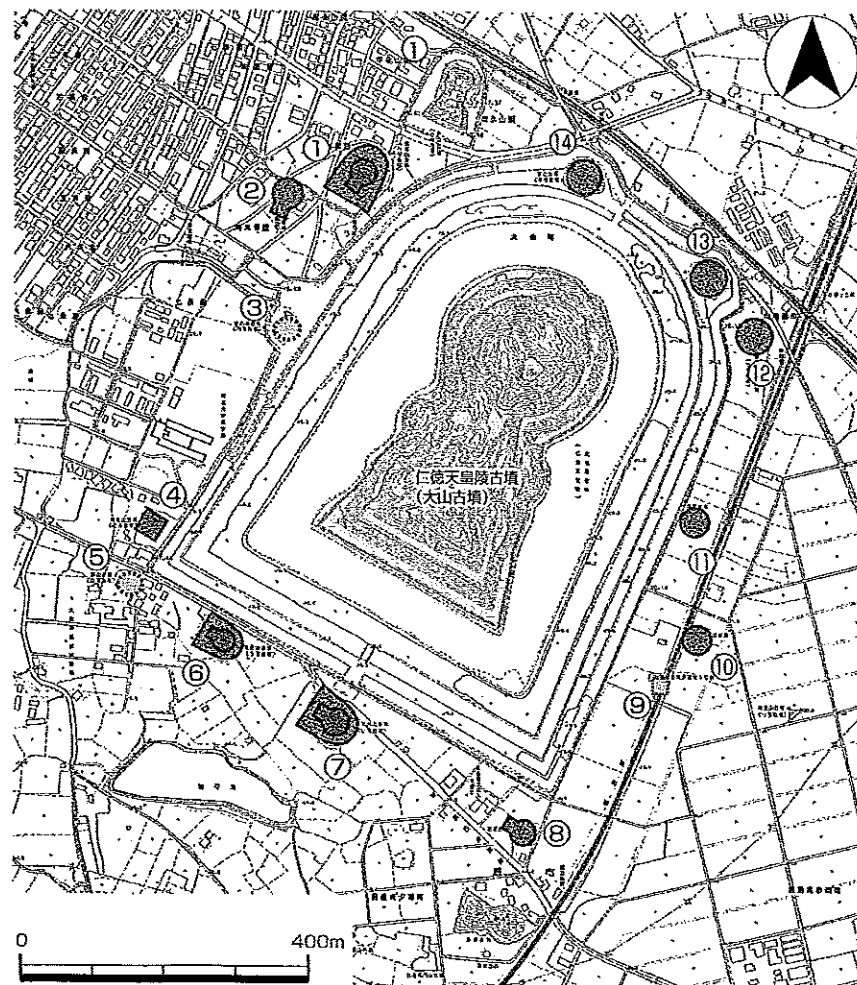
- ① 丸保山古墳
- ② 孤山塚古墳
- ③ 一本松古墳
- ④ 銅鳥塚古墳
- ⑤ 狐山古墳
- ⑥ 竜佐山古墳
- ⑦ 孫太夫古墳
- ⑧ 収塚古墳
- ⑨ 百舌鳥夕雲町1丁古墳
- ⑩ 鏡塚古墳
- ⑪ 塚廻古墳
- ⑫ 源右衛門山古墳
- ⑬ 大安寺山古墳
- ⑭ 茶山古墳

〔現存する古墳〕

- 前方後円墳
- 帆立貝式古墳
- 円墳
- 方墳

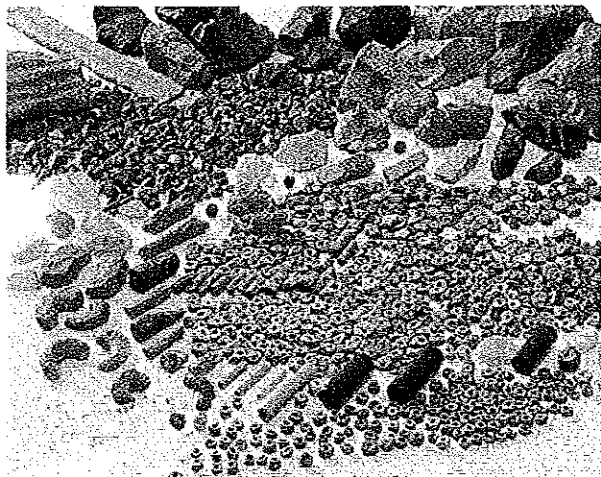
〔消滅した古墳〕

- 前方後円墳
- 帆立貝式古墳
- 円墳
- 方墳



243 仁徳天皇陵古墳の陪塚

8-2 図 大山古墳（伝仁徳陵）とその倍塚（近つ飛鳥博物館『百舌鳥・古市の陵墓古墳』より転載）

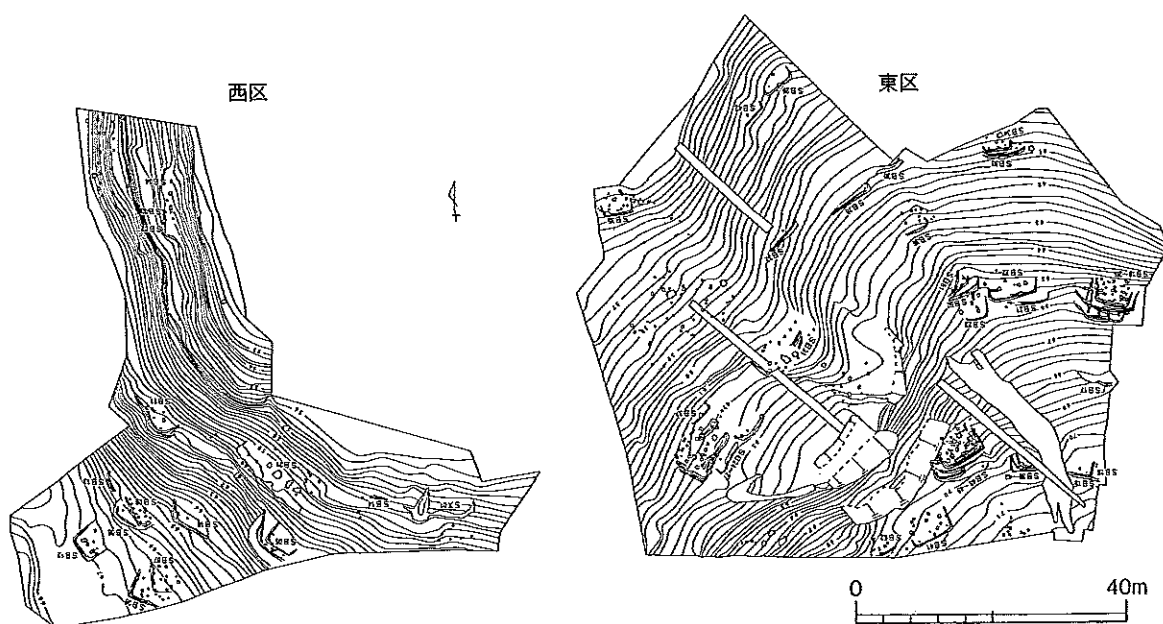


8-1 図 曾我遺跡から出土した大量の玉作り関連遺物
出土した玉未成品や剥片は総重量約2.7トン、821万点にも及ぶ。その規模の大きさは、ヤマト王権の玉作り工房を語るにふさわしい。



8-2 図 曾我遺跡の全景
ヤマト王権の有力豪族・大伴氏の本拠地である十市に位置する。また、隣接する忌部町には式内社の天太王命神社がある。

8-1・2 図 曾我遺跡と出雲の玉造 古代出雲歴史博物館『輝く出雲ブランド』より



堂床遺跡遺構配置図 (S=1:1100)

8-3 図 松江市堂床遺跡の玉作工房

史料8 『古事記』垂仁天皇段 ホムチワケ伝承

かれ、その御子を率て遊びし状は、尾張の相津なる二俣を、二俣小舟に作りて、持ち上りきて、倭の市師の池・輕の池に浮べて、その御子を率て遊びき。しかるに、この御子、八拳類、心前に至るまでに、真事とはず。かれ、今高往く鶴の音を聞きて、始めてあぎとひたまひき。しかして、山の辺の大鶴は人の名を遣して、その鳥を取らしめたまひき。かれ、この人、その鶴を追ひ尋ねて、木の国より針間の国に到り、また追ひて稲羽の国に越え、すなはち旦波の国・多遅麻の国に到り、東の方に追ひ廻りて、近つ淡海の国に到り、すなはち三野の国に越え、尾張の国より伝ひて科野の国に追ひ、つひに高志の国に追ひ到りて、和那美の水門に網を張り、その鳥を取りて、持ち上りて献りき。かれ、その水門を号けて、和那美の水門といふ。また、その鳥を見たまはば物言はむと思ほすに、思ほすがごとく言ひたまふ事なかりき。ここに、天皇患へたまひて、御寝ませる時に、御夢に覺して曰らししく、「わが宮を天皇の御舎のごと修理ひたまはば、御子必ず真事とはむ」と。かく覺したまふ時に、ふとまにに占相ひて、いづれの神の心ぞと求めしに、その崇は、出雲の大神の御心にありき。

かれ、天皇歡喜びたまひて、すなはち菟上の王を返して、神の宮を造はしめたまひき。ここに、天皇その御子によりて、鳥取部・鳥甘部・品遅部・大湯坐・若湯坐を定めたまひき。